

正 誤 表

下記の部分に誤りがありましたので訂正いたします。
ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

2005 システム監査「専門知識 + 午後問題」重点対策

No	訂正箇所	誤	正
1	P.155 (2)商法 その他	監査役の任期 3年	監査役の任期 4年 (平成14年5月施行の改正により、3年から4年に変更)
2	P.156 〔監査役監査〕	・ 監査役の員数等 監査役は3名以上で、そのうち最低1名は就任前5年間、会社や子会社の役員や使用人であってはならない。会社と関係を持たない監査役が社外監査役と呼ばれる。	・ 監査役の員数等 中小会社の監査役は1名以上でよいが、大会社(資本金5億以上または負債合計が200億以上の株式会社)の場合には、監査役は3名以上で、そのうち半数以上は就任前に、会社や子会社の役員や使用人となっていないはならない。会社と関係を持たない監査役が社外監査役と呼ばれる(平成14年5月施行の改正により、社外監査役の要件と数に変更)。
3	P.221 中段 設問3 問題文	設問3 プログラム開発以降の工程を考えると、今回の見積り手順の内容では見積りとして必要なものが欠けている。ソフトウェアの開発およびテスト以外に必要な作業であるが、それは何か2点挙げ、それぞれ15字以内で述べよ。	(不要な文章が入ってしまいました。削除してください。)
4	P.222 テクニク [設問2]の下	つまり、この問題の設問は、システム構築において、企業体質とのぶつかり合いが最も深刻な問題となることが多いという問題認識があれば、ほとんど一般論で記述ができる問題であることをつかむ必要がある。	(不要な文章が入ってしまいました。削除してください。)